

かるがも

第54号



<https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2022年〈令和4年〉2月



病院長あいさつ

病院長 星岡 明

新年、おめでとうございます。

昨年はコロナでたいへんな年でした。今年はpostコロナ、withコロナの年となることでしょう。人間社会がどんなに大騒ぎしていても、太陽は輝き、四季は巡り、こども達は一日一日成長していきます。

いくら目隠しをされても己は向く方へ向く。
いくら廻されても針は天極をさす。

「詩人」という題がついた高村光太郎の言葉です。

こども病院も「その子らしく、その子のために」の基本理念(天極)を目指し、まっすぐに進んでまいります。

今年もご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



コロナ禍とワクチン接種

医療局長 皆川 真規

世界中でコロナ禍が続いている状況です。感染症対策の重要性はこれからもますます大きくなることと思います。感染症対策の中心は予防であり、基本的な感染防止策の徹底と予防接種の推進が柱でしょう。

飛沫感染や接触感染からの防護では、シンプルなルールをひとりひとりが徹底的に習慣化することが重要と感じています。不織布マスクを適切に着用すること、大きな声を出さないこと、人と距離をあげることで飛沫感染は防げそうです。また、手は汚れるものという認識のもと体の感染症の侵入門戸(おもに口、鼻、目)に接触させないという意識と行動、手指衛生・手指消毒で接触感染も防げます。

予防接種について、日本の行政はこれまで様々な社会の動きによって翻弄されてきましたが、推進するためには社会のコンセンサスを得ることが重要です。新型コロナウイルスワクチンの必要性については、副反応への知識・理解とともに、大多数の人に支持されていると思います。筋注という投与方法についても、わが国では1970年代に筋注後の大腿四頭筋拘縮症が多発したことから忌避されてきた経緯がありますが、コロナワクチン接種により接種者の手技の向上とともに社会からも受け入れられている状況と思います。こうした中で、子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)定期接種について、平成25年の厚生労働省通知以来「積極的な推奨を差し控える」状態となっていたものが、「接種を個別に勧奨する」通知が令和3年11月26日に厚生労働省健康局長から発せられ、推進される方向になったのは印象的な出来事でした。

手術だけでなく投薬や療養指導を含むすべての医療行為には、リスクやデメリット、医療者が期待した効果が十分には得られないなどのことが、多かれ少なかれ必ず伴うという認識は医療者としては常識だと思います。一方、医学、医療に対する人々の理解や期待は、我々医療者とはまだまだかなりのギャップがあります。社会は様々な考え方の人で構成されており、現在のわが国では自分の意見を自由に表明することができます。報道やSNSを通じての情報も自由に広まります。私たちはひとりひとりで、それらの情報を取捨選択して自分の意思決定をしていく必要があります。患者さんの意思決定を支えるために、私たち医療者が日々の診療で正確な医療情報を伝える地道な作業は、人工知能(AI)には決して取って替わられることのない責務であり続けることと思います。

診療科のご紹介 心臓血管外科

【心臓血管外科は】

先天性心疾患や、小児期に治療が必要な心臓血管疾患を手術で治療する診療科です。当院心臓血管外科外来に初診で来院される患者さんはほとんどおりません。ほとんどすべてが他院から循環器内科や新生児科に紹介された患者さんです。その時期は、胎児診断された出生前から、学童・青年期にまで及びます。実際の手術時年齢は、全体の約 2 割は新生児期、約 4 割が 1 歳以下（新生児期のぞく）という特徴があります。

【疾患は】

心臓の役割は、酸素濃度の低下した静脈血を、肺循環させ酸素濃度を上昇させ、体の隅々まで届くように大動脈に拍出することです。この血流路のどこかが、狭かったり、小さかったり、別のところに短絡したり、正常と異なることによって、ファロー四徴症や大血管転位症、単心室症などの疾患名がついています。これらを正常循環にする修復術や、また酸素濃度を上昇させるためにフォンタン手術をしています。

【実際の手術は】

定例手術日は、月、火、木です。朝 9 時に手術室に入室します。約 1 時間から 2 時間かけて麻酔導入・維持や術中モニタリングの確立を行い、その後執刀となります。術後は ICU に入室し、集中治療を通して手術侵襲（疼痛や不安などの心的ストレスや、呼吸循環動態の変動や組織損傷など）を軽減させます。NICU や HCU・一般病棟に移動し、退院に向けて評価と治療をしていきます。

【退院後】

堂々と力強く、あと 90 年生きていくことになります。

(文責 萩野 生男)

スタッフの紹介

- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなところ 4 医者になってなかったら?
5 ストレス解消法 6 休日の過ごし方

あおき みつる 1 青木 満

- 2 千葉県
3 診療科を越えてみんなが協力してくれるところ
4 国境をこえた仕事
5 犬と散歩
6 散歩、ドライブ、ガーデニング



はぎの いくお 1 萩野 生男

- 2 東京都
3 多くの専門的な職種の方々との連携がある
4 アメリカ国立公園パトロールのような自然の中の仕事
5 ぼんやり
6 散歩、読書、昼寝



こしやま ひろし 1 腰山 宏

- 2 秋田県
3 働きやすい
4 建築家
5 運動、散歩
6 公園、昼寝



いとう たかひろ 1 伊藤 貴弘

- 2 千葉県千葉市
3 「その子らしく」、「その子のために」働いているところ
4 弁護士
5 サッカー、ロードバイク
6 子どもと遊ぶ、料理



くま え まさる 1 熊江 優

- 2 神奈川県
3 子どものために働けるところ
4 獣医か料理人が自動車整備業
5 テニス、調理飲食、自動車
6 ⑤に同じ



にしおり ひろのぶ 1 西織 浩信

- 2 千葉県市川市
3 スタッフの皆さんが子どものために一生懸命なところ
4 国家公務員
5 車を音量大きめに音楽をかけながら運転する
6 子どもを公園に連れていく



診療科のご紹介 精神科

【どんな病気を診るところ?】

精神科一般では、うつ病（躁うつ病）、統合失調症、認知症、身体症状症（心の問題が体に出る病気）が多いのですが、千葉県こども病院では、発達障害（知的障害のない ADHD、自閉スペクトラム症、学習障害など）、知的障害、身体症状症、不安症、不登校、ストレス障害（PTSD など）、摂食障害などを診ます。



【どんなことをするの?】

発達障害や知的障害には、一般的な発達検査（いわゆる知能検査で WISC、田中ビネーなど）の他、自閉スペクトラム症の自閉の程度を測る検査（ADOS、PARS など）、学習障害のための読み書き計算能力を測る検査（STRAW など）等を行い、必要に応じた療養の手立てを提案させていただきます。ADHD に対しては薬物療法も行っております。

身体症状症、不安症、不登校、ストレス障害に対しては、カウンセリング、遊戯療法、認知行動療法などを行います。

摂食障害は、こどもの場合ほとんどが神経性やせ症で、体の治療も必要になるので、入院で栄養治療と心理治療を並行して行います。神経性やせ症の場合、確立された心理治療はないのですが、発達検査、性格検査（描画テスト、PF スタディ、エゴグラムなど）の結果を利用しながら、家庭内の状況、学校での友達関係なども念頭に、当院に蓄積された治療法を駆使して対応いたします。治療というよりは「育てる」意味合いの強い方法です。



スタッフの紹介

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方

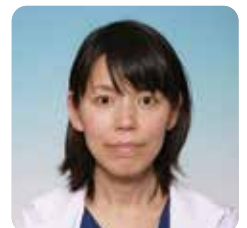
1 安藤 咲穂

- 2 生まれは愛知ですが、静岡、神奈川、東京、千葉と、「ふるさと」と呼べる場所はたくさんあります
- 3 こどもには未来があり、患者さんが元気になって活躍する姿が見られること
- 4 ものを創る仕事が良かったな
- 5 自転車で遠くにでかけること
- 6 お料理に挑戦



1 富田 陽子

- 2 兵庫県
- 3 どのスタッフの方もこどものことを一番に考えて働いているところ。
- 4 放浪しながら好きなことを見つけていたと思います。
- 5 愚痴を聞いてもらう、寝る、美味しいものを食べる。
- 6 家でゆったり過ごしたり、出掛けたり、いろいろです。



臨床工学科のご紹介

#臨床工学科はどんなところ??

現在の医療では多くの医療機器が様々なところで使用されています。医療機器のトラブルは生命に直結する機器も多くあるため、その機器をいつ何時でも安全に使用できるよう医療機器の専門職である「臨床工学技士」が院内で点検や整備を行っています。

現在常勤職員 6 名にて人工心肺業務、人工呼吸器業務、カテーテル検査業務、医療機器管理業務に対応しています。

【人工心肺業務】

心臓手術では心臓の拍動を一度止め、心臓の中の血液を空にして視野を確保するために心臓と肺の代わりにする装置「人工心肺装置」を使用します。小児における先天性心疾患の手術で使用される人工心肺装置の操作を行っています。



【人工呼吸器業務】

人工呼吸器を使用している患者さんの動作中のチェックや回路交換、トラブル時の対応などを行っています。在宅人工呼吸器などのトラブルなども対応しています。



【血液浄化業務】

体内の老廃物が貯まってしまう場合や排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合に行う治療で、血液透析療法、血漿交換療法、血液吸着療法など様々な血液浄化療法を主に集中治療室にて行っています。



【心臓カテーテル検査業務】

主に先天性心疾患の術前検査や術後検査、カテーテル治療における心臓の圧測定や検査室内の機械操作などを行っています。



【医療機器管理業務】

医療機器管理では輸液療法に使われる輸液ポンプやシリンジポンプの使用後点検、定期点検やパルスオキシメーターの管理、生体情報モニターの管理など幅広く行って常に安全に医療機器が使用できるよう管理しています。

患者さん、ご家族の方へ

現在医療の中では様々な機器が集中治療室から在宅まで使用されています。特に在宅に関しては機器の種類や使い方に困る場面や不安に思うことも多いと思います。そんな在宅医療支援の体制も少しずつですが取り組んでいきたいと思っております。なかなか外来や院内でお会いする機会は少ないですが、何か困っていることがあれば、こども・家族支援センターや外来経由でも構いませんのでご相談いただければできる限り対応していきたいと思っております。

小児救急看護認定看護師

子どもは、病態の変化が急速で重症化しやすく、症状の現れ方が非特異的と言われています。また、自らの症状を上手く伝える事ができません。

そんな子どもたちのサインをキャッチし、適切に対応することを目標に子どもたちと接しています。また、医療の進化に伴い医療的ケアを必要とされ退院する子どもたちが増え、少子化核家族化もすすむなかで子育てに不安を抱くご家族も増えているように感じます。ご家族の不安が少しでも軽減できるようなお手伝いを心掛け、救急に対応するだけでなく、その子らしい健やかな成長発達を願い「一番の子どもの味方」であることを目標に日々活動しています。



初芝 寿子

子どもに安全をプレゼント

厚生労働省人口動態調査によると「不慮の事故死」は、病気を含まずすべての子どもの死因の上位を占めています。子どもを24時間見守ることは困難ですが、子どもの発達段階に合わせた対応することで防げる事故もたくさんあります。生活する環境を見直し安全をプレゼントしてみませんか？

<家庭で出来る事故の予防対策>

窒息(のどに詰まる)

- うつぶせ寝をさせない。重たい布団を使わない。
- ビニール袋で遊ばせない。
- 4歳未満の乳児には噛み砕かないといけない食品を与えない。遊びながら食品を与えない。
- ミルクを1人で飲ませない。
- 哺乳後はゲップをさせる。
ゲップがでないまま寝かせる時は横向きにする。



誤飲(食べ物で無い物を飲み込む)

- 子どもの口に入る直径3.9cm以下のもの(トイレットペーパーの芯の内径を通るもの)は、子どもの手の届かない1m以上の高い場所に置く。
- 禁煙する。できない場合には、タバコや灰皿は子どもの手の届かない場所に置く。空き缶やペットボトルを灰皿代わりに使用しない。
- お菓子の缶やペットボトルに食品以外の物を入れて保管しない(洗剤などを入れない)。
- 年齢に合った玩具を選択する。
- 親自身がハイハイの姿勢をとってみて、誤飲の原因物質の片づけ忘れがないかを見直す。



転落(高さのある所から落ちる)

- 子どもを抱っこして歩く場合は、歩きやすい履物にする。周囲に気を付ける。
- 寝返りができるようになったらベッドには柵をつける。ソファに寝かせない。
- ハイハイをするような時期までには、階段に転落予防柵を取り付ける。
- 窓の下にソファなど足台になるような物は置かない。
- ベランダには1人で出られないように施錠する。
- ベランダに足台になるような物を置かない。

熱傷(やけど)

- 子どもを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。
- ストーブやヒーターは安全柵で囲う。
- ポットや炊飯器は手の届かないところに置く。
- テーブルクロスは使用しない。
- 熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置く。
- キッチンに子どもを入れない。



溺水(溺れる)

- 浴槽に残り湯やため湯をしない(15cmの深さでも溺死することがあります)。
- 浴槽に鍵をかける。
- 子どもだけでお風呂に入れたり遊ばせない。
- 短い時間(洗髪や電話への対応など)であっても、浴槽に子どもを1人にしない。



国立保健医療科学院
「子どもに安全をプレゼント～事故防止支援サイト」
<http://www.niph.go.jp/>
子どもを事故から守る! 事故防止ポータル消費者庁
<http://www.caa.go.jp/>

小児がん相談支援センターのご紹介

相談窓口では、小児がんの治療をされるお子さんとご家族の療養生活に関するご相談をお受けしております。例えば、助成制度や福祉サービスについて知りたい、今後の家族の生活はどうなるのか、きょうだいのことなど、ソーシャルワーカーがお話を伺い、医師・看護師・CLS・リハビリ専門職などの病院スタッフと連携を取り、様々な悩みについて一緒に考えていきます。

受付時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

担当 五十嵐



成人移行支援研修会

令和3年11月15日に研修会を実施しました。

長野県立こども病院移行期医療支援センターのセンター長である瀧間浄宏循環器小児科部長と、移行期支援に携わってこられた林部麻美副看護部長に、「長野県の移行期医療支援の取り組み」についてご講演をいただきました。今回は、COVID-19 感染拡大防止のため、長野県立こども病院とオンラインでつないでの研修会でしたが、当院でも取り組みをしている成人移行に向けて、少しでも知識を得ようと、会場参加とweb参加を合わせて159名と多くの職員が参加しました。アンケート結果からは、「こども達の成長に合わせて、医師や多職種のスタッフと一緒に少しずつ説明をする機会を設けたい」「院内の仕組みを構築していきたい」など前向きな意見が聞かれました。今回の研修会を機会に、当院での成人移行支援の更なる充実に繋げていきたいと思っております。



クリスマスイベント

コロナ禍ではありますが、感染予防に十分配慮した上で、入院中のこどもたちや面会にこられたご家族にクリスマスを感じて頂きたく、当院のお楽しみ委員会主催のイベントを開催しました。12月24日にサンタ役の医師・トナカイ役の看護師・写真撮影係の3名で各病棟を訪問し、入院中のこどもたちと写真を撮り、委員会で作成したフォトフレームと共にプレゼントしました。「メリークリスマス！」の掛け声で登場したサンタとトナカイに、こどもたちは大喜び!ご家族からも「季節を感じることができてよかった」など嬉しいお言葉を頂きました。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、今後もこどもたちが笑顔になれるイベントを創意工夫しながら開催していきたいと思っております。

